

7

2010年にソフトバンク株を買っていたら14倍、エヌビディアなら6000倍に……

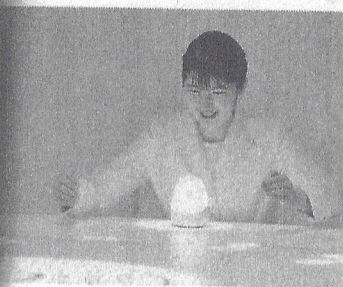
2040年に10倍に化ける株を仕込もう 厳選18銘柄

10万円が15年で1.1億円に！

思い出してほしい。今から15年前、スマホが発売されてからまだ2年ほどで、一般に普及しているとは言いがたかった。その頃、アイフォンを独占販売していたのが、ソフトバンク（現在はソフトバン

クグループ）だった。当時と比べて同社の株価は約14倍となり、現在、世界的な生成AI関連企業となっている。もちろん当時、AIの実用化などは夢物語の類だった。ところが、今ではスマホに入

ったチャットGPTなどで気軽に何でも相談できるようになった。この技術が可能にしたのが、米エヌビディアの超高速半導体だ。15年前の同社の株価は、1株32セント（株式分割調整後）。それが今や190ドルと、約600倍となっている。もし10年にエヌ



愛子さまも大阪・関西万博で核融合アトラクションを体験

ビディア株を10万円分買っていたら……その後の円安ドル

高の影響も相まって、1.1億円（1）になっている計算だ。

15年も経てば、社会はガラリと様相を変える。今は夢物語のような技術が日常的に使われ、人々の生活に欠かせないものになっているだろう。

それを見越して関連銘柄を今のうちに仕込めれば、40年に10倍になるかもしれない。

複眼経済塾塾頭で証券アナリストの瀧澤信氏が注目する次世代技術は、大手通信持ち

株会社のNTTが開発する。

「次世代通信基盤として構想されているIOWNという技術が大化けする可能性がります。これまでの電気回線を光装置に置き換えることで、電力消費を大幅に抑えながら、大容量のデータを送信できるようにするものです。

たとえば、手術支援ロボットによる遠隔手術などが実現するかもしれません。現在、AIに不可欠なデータセンター（DC）は膨大な電力を消費することが問題視されてい

ますが、IOWNならこれも解決できる可能性がある。

現状ではNTTしかこの技術を持っておらず、30年代の実装を目指すとしています。40年にはスタンダードになっ

「誰がAIを使って勝つのか」

松井証券のマーケットアナリスト・大山季之氏は、生成AIを賢く潤滑に動かすために不可欠なDC関連銘柄に注目する。

「米マール・テクノロジはアマゾンに主要顧客として、同社のAI向けDCに最適化された省電力カスタム半導体などを開発しています。エヌビディア製のような汎用高性能品とは異なる、特定用途での優位性が強みです。

また、米バーティブ・ホールディングスは、DC向けの冷却ソリューションを提供している企業です。こちらも主要顧客はアマゾンやグーグル

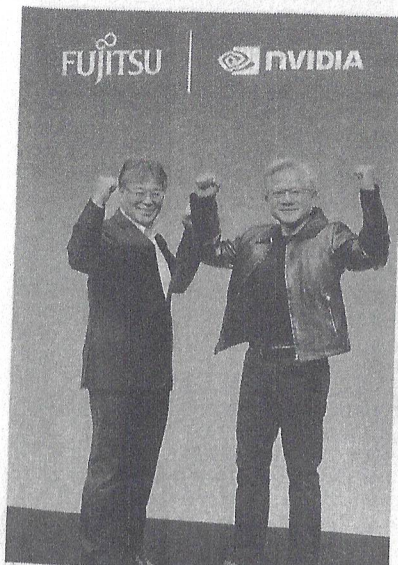
でもおかしくない」

エヌビディアに代表される米国株にも夢のある銘柄が多い。国内の証券会社でも外国株取引口座を開設すれば、簡単に売買することができる。

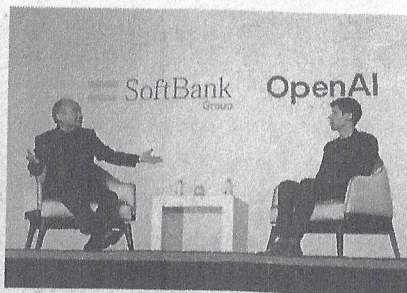
などの大手が占めているほか、エヌビディアと提携していることにも注目です。長期投資は業績が安定しているものを中心にすることが大事ですが、中にはより成長性が期待できる、このような新興銘柄を加えることも大事です」

現在、生成AIが連日話題になっているが、これからは生成AIを使ってどんなビジネスを展開するかが焦点となる。百年コンサルティング代表で経済評論家の鈴木貴博氏は「誰がAIを使って勝つのか」と考える。

「その答えは、『ビッグデータを握っているプレイヤー』



10月にエヌビディアはAI半導体で富士通との協業を発表。右が同社CEOのジェンスン・フアン氏



OpenAIに投資するソフトバンクG創業者の孫正義氏（左）

「日本にも量子C Pの拠点はいくつかありますが、基本的にはまだ研究段階です。しかし、米国では違います。とくに米イオンQと米Dウェイブ・クオンタムはすでに実用化の段階に入っています。2社とも上場しています。どちらも時価総額が1兆円単位になっています。

現時点でまだ量子C Pの計算能力は物足りないですが、今後、量子ビットの数が増えていくにつれ、桁違いに上がっていくでしょう。現在の地球上のすべてのコンピュータを合わせた計算能力を量子C P 1台が上回る——そういう

高市政権の経済政策にもヒントがある

15年後に10倍になる株を探すのも、まずは足元から。その意味で高市政権の経済政策に注目するのが、マーケットバンク代表の岡田憲史氏だ。「AIやエネルギー安全保障など様々な分野を戦略領域に指定し、『国家主導の成長資本主義』を明確に打ち出したのが、中でも私が注目したのが、ライフサイエンス・バイオ産業です。高齢化が進む日本で、医療・創薬分野の国内回帰は急務となっています。

その方針に沿うのが、FRONTEOとメディシノバ・インクです。前者はAI創薬支援サービスを展開し、従来のバイオ医薬開発に革命をもたらす可能性があります。後

たえば、電線大手フジクラは、高温超電導線材に強みを持ちますが、これは核融合炉に不可欠な技術です。日本に限らず、同社の線材がなければ、核融合発電が実現できないと言われています。他にも関連銘柄として、原

未来の技術を信じて買う! 2040年に10倍に化ける株

分野	銘柄名(コード・ティッカー)	最低投資額	内容
データセンター	西部技研(6223)	17万1500円	産業用特殊空調装置の開発・製造を手がける。工場の省エネ化のみならず、DCへの応用も
	NTT(9432)	1万5280円	NTTグループの持ち株会社。次世代通信基盤IOWN実現で、通信技術に再び革新が起きる
	米マーベル・テクノロジー(MRVL)	1万2934円	アマゾンなど向けに省電力カスタム半導体を開発。クラウドDCなど幅広い業界にも展開
	米バーティブ・ホールディングス(VRT)	2万5830円	DC向けに冷却装置などを製造する。米半導体大手エヌビディアと提携している点にも注目
ビッグデータ	フリー(4478)	33万5000円	個人事業主や中小企業向けに会計サービスなどを提供。データ活用次第で大化けの可能性も
	LINEヤフー(4689)	4万2070円	コミュニケーションアプリをはじめ、各種ネットサービスを手がけ、データの活用余地あり
	楽天グループ(4755)	9万440円	ネット通販大手。モバイル事業の好転も見え始めた。自社データのAI活用でさらなる飛躍も
量子C P	米イオンQ(IONQ)	7407円	イオントラップ型量子C Pを開発する。実用性が見えてくれば、100倍以上の株価上昇も
	米Dウェイブ・クオンタム(QBTS)	3538円	量子アニーリングC Pを開発する草分け。すでに実装しており、物流分野などで注目される
バイオ医薬	FRONTEO(2158)	9万2300円	AIを使った創薬支援サービスを展開し、肝臓がん関連性の高い遺伝子を抽出したと報告
	メディシノバ・インク(4875)	2万1800円	米国が本拠の創薬会社。ALS治療薬が現在、フェーズ2/3で、世界規模の販売を期待できる
	米バーテックス・ファーマシューティカルズ(VRTX)	6万7273円	遺伝子編集技術を用いるバイオ創薬。糖尿病など市場が大きい治療薬の開発を複数抱える
核融合・宇宙	フジクラ(5803)	178万7500円	電線大手。DC向けですでに株価は高いが、核融合炉向け高温超電導線材も有望で一段高
	助川電気工業(7711)	61万1000円	熱と計測に関わる機器メーカー。原子力分野でも豊富な実績を持ち、核融合研究にも協力する
	QPS研究所(5595)	16万8300円	小型SAR衛星を開発・製造し、地表観測する九州大発ベンチャー。データ販売モデルも有望
エンタメ	サンリオ(8136)	55万3900円	ハローキティが世界的に人気。さらなるIP展開で時価総額が10倍になってもおかしくない
	カプコン(9697)	38万1200円	ゲーム開発大手。eスポーツ人気が追い風に、将来的にオリンピック種目になる可能性も
	米ロブックス(RBLX)	1万5696円	子供向けゲームのプラットフォームを運営。成長途上で、ユーザー数の増加に注目したい

※数値は11月18日現在。最低投資額は100株あたりの金額。米国株は1ドル＝155円で計算

です。ビッグデータを活用することで大きく伸びる余地のある日本企業と考えると、LINEヤフーと楽天グループ、そして会計ソフトを提供するフリーの3社ではないか。LINEヤフーはコミュニケーションアプリをはじめ、各種ネットサービスを手がけて、膨大なデータを収集しています。楽天グループもネット通販やモバイル通信で、大規模なデータを握っている。フリーは、個人事業主や中小企業向けに会計や人事労務サービスを手がけています。個人情報をもとに活用できるのかという問題はあっても、ビッグデータをAIで利用すれば、個々人にカスタマイズしたサービスを展開できるはずだ。

S&SインベストメントCEOで経営コンサルタントの岡村聡氏は、40年に実用化されている技術として量子コンピュータ(CP)を挙げる。

宇宙関連の分野でも、日本企業の存在感が増している。ダイヤモンド・フィナンシャル・リサーチのアナリスト・小林大純氏が言う。

「今後、宇宙空間の利活用が進んでいく中で、九州大学発のベンチャー企業、QPS研究所が強みを発揮するチャンスが出てきました。同社は夜間でも鮮明な映像を取得できる小型の人工衛星を開発・製造しています。小型衛星網を作って、安全保障などに活用するべく、防衛省とも連携を強化しています。今後、民間でも活用が進んでくると考えれば、40年に向けてかなり期待できる銘柄です」

日々の株価変動に一喜一憂するのではなく、未来の新技術に夢を託したい。